

# 1の3 音楽科学習指導案

第1日目1限 第2音楽室

授業者 乗 富 章 子

## 1 題材名 おんがくでおはなし

(「どんぐりころころ」「たきび」「小ぎつね」等)

- 2 目標
- ・秋への自分なりの想いをもって曲を選び楽しんで歌おうとする。
  - ・秋にちなんだ曲の気分を味わいながら歌うことができる。

## 3 指導にあたって

### 本題材の基礎・基本について

これまで子どもは、自分が歌いたいように自由に歌ったり、友達と声をそろえて歌ったり、拍に合わせて歌遊びを楽しんだりしてきた。そこでは歌うこと自体を楽しみ、歌で自己表現してきた。教材とする曲も気持ちよく元気よく歌う歌が中心で、リズムカルな曲が多かった。従って子どもは、歌詞の意味を味わって歌うような経験は少なく、いつでも声を張り上げて歌っている。しかし、今月の歌を歌う様子などから、メロディックな旋律の歌が好きな子どもも多いことが予想される。

この題材では、学級活動の中で紹介しておいた秋にちなんだいくつかの曲の中から自分が気に入った曲を選んで、歌い方を自分なりに工夫し、それを発表し合う活動を行うことで、歌唱表現の工夫の仕方を学ばせたいと考えている。教材とする曲は、「どんぐりころころ」「たきび」「小ぎつね」「小さい秋みつけた」などである。

これらの秋にちなんだ曲を歌うことでしみじみとした季節感にいたり、穏やかに豊かに歌うことも素敵だなと感じ取ってほしいと考えている。

以上のことから、本題材における基礎・基本を次のようにとらえた。


・秋への自分なりの想いをもち、その想いにつながる曲を楽しんで歌おうとする。

・自分が選んだ秋の歌の歌い方をいろいろ工夫し、よさを味わいながら聴いたりできる。

秋にちなんだ曲といっても、子どもの受け取り方はさまざまであろう。自分の想いやイメージと重ねて選ばせたい。また歌い方の工夫も、身体表現や交互唱、分担唱などと共に表情や声の大きさも大切な要素として考えさせたい。

この学習を経験することで自分なりの想いを込め、イメージを膨らませながら曲の気分を味わって歌うことの楽しさを感じるができるようになることを期待している。

### 単元計画 (総時数 4時間)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 「どんぐりころころ」「こぎつね」「たき火」など秋の歌を歌う ・秋の歌にもいろいろあるんだね ・ぼくは「○○○」がすきだな ・どんな歌い方をしたらすてきな	②③
2 歌を選び歌い方を工夫する  自分の秋の歌を楽しくすてきに歌おう	①③
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">おはなし するように</div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">くりかえしの ことばを大小で</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">やさしい 声で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">身体で うたおう</div> </div>	③④
3 歌を発表しあう ・〇さんはやさしい声でうたっていていいね ・歌に合わせて身体でも歌っているよ ・お話するように歌うのもすてきな ・声を強くしたり弱くしたりしているよ ・いっしょに歌いたくなってきたよ	

学びを広げ深めるために

① 教材の精選をはかる

教科書では「あめふりくまのこ」を教材として扱っている。この曲は、7月の雨の季節に学級活動で歌ったのでここでは扱わない。秋にちなんだ半知教材を数曲扱う理由は、子どもは生活科などの学習で秋を素材として様々な活動をしてきているのでそれとも関連して自分なりの想いをもって秋の歌を選び、そのよさを味わわせたいと考えるからである。

→自分なりの想いをもって曲を決めようとする姿

② 音楽の特質に触れるような楽曲との出会いを図る

音楽の芸術性にまで触れることはまだ難しいと思われるが、様々な活動を通して触れてきた秋ならではのよさを歌の世界にも広げるために、紅葉の様子や赤とんぼの情景を描いたLDなどを見せてイメージを膨らませてから曲を紹介したい。

→イメージを膨らませて楽曲に聴き入る姿

③ 音そのものに関わる活動を重視する

自分が選んだ歌をどんな歌い方をすれば素敵に聴こえるだろうかと問い、子どもに工夫させたい。子どもの工夫は身体表現、交互唱、独唱と斉唱などが予想されるが、それをみんなで歌って確かめるなど音に関わりながら表現を高めていく。

→表現の仕方を工夫して歌っている姿

④ 互いに聴き合って想いを分かち合うことで新たな意欲を持つ


友達の歌い方を好意的に注意深く聴き取り、よさを認め合って、自分の表現に生かすことができるようにしたい。

→聴き合って学んだことを自分の表現に生かそうとする姿

4 本時の学習 (4 / 4 時)

ねらい 自分たちの選んだ秋の歌を発表し合って楽しむ。

本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教師の働きかけ
1 既習曲や今月の歌を歌い名前呼びをする ・気持ちよく声が出せたよ	気持ち良く学習が始められるように一人ひとりの構えを見て取る
2 秋の歌を歌う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         ぼくたちの秋の歌を聴いてね 聴かせてね                     </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;">                         どんぐりころころ                          身体で歌おう                          分かれて歌うよ                     </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;">                         たき火                          「あたらうか あたらうよ」を                          相談しているように歌おう                     </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;">                         小ぎつね                          「山の中 山の中」と                          声の大きさを変えて                          歌えたらいいな                     </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;">                         小さい秋みつけた                          お話するように                          ゆっくりと歌いたい                          むずかしいことばが                          たくさんあるよ                     </div> </div>	それぞれがどんな想いをもってどんな工夫をしているか話してから発表させる  工夫したことが他の子どもにも伝わるようにみんなで歌って確かめる
3 本時のまとめをする ・自分で歌い方を工夫して歌えたよ ・友達の歌を楽しく聴けたよ 上手だったよ	できたことよかったことを互いに認め合うようにする

## 6の3 音楽科学習指導案 第1日目2限 第1、2音楽室

授業者 沢野 景子

1 題材名 自分の音で表現（「春の海」）

- 2 目標
- ・日本の伝統楽器である箏や尺八に関心を持ち、その響きを味わったり、情景を想像しながら聴いたりすることができる。
  - ・日本の音楽の特徴を考え、自分の想いを表現するのに適した楽器を選択したり奏法を工夫したりして表現を楽しむことができる。

### 3 指導にあたって

#### 本題材の基礎・基本について

この題材では、鑑賞領域において箏と尺八の特色ある音色や奏法を知り、各々の旋律が美しく絡み合ったりかけ合ったりして日本独特の情景や風情を表わしていることに気付くことをねらっている。また表現領域においては、日本の音楽のよさを意識しながら自分の想いを込めた表現にふさわしい楽器を選び、速さや強弱、演奏の仕方を工夫して表現できるようになることをねらっている。

子どもはこれまでに滝廉太郎や山田耕筰の歌曲に親しみ、主旋律や歌詞の内容から日本のふしの面白さや美しさを感じとり、その情景・雰囲気味わってきた。しかしまだ尺八や箏などの日本の伝統楽器による器楽曲から、日本の音楽の美しさを感じとるにはいたっていないと思われる。またこのような日本の楽曲を耳にすることはあっても、自分自身が演奏者として想いをこめ

楽器で表現した経験があまりない。そこで日本の伝統楽器である箏と尺八による二重奏で日本の音楽の美しさを感じながら、ゆったりとした部分が多いので演奏しやすい「春の海」を教材として取り上げ上記の目標にせまらせたいと考えた。


「春の海」は宮城道雄が箏と尺八の二重奏として作曲した曲である。この曲は日本の曲でありながら、西洋音楽のよさが巧みに取り入れられている。そのため弦楽器や管楽器でも演奏され、外国でも高い評価を得ている。子どもはこれらのさまざまな楽器による演奏を比較鑑賞することにより、各々のよさを感じ取っていくであろう。そしてさらに日本の楽器や日本の楽曲のよさを再認識することができると思われる。

以上のことから本題材の基礎基本を、次のように捉えた。

箏と尺八による二重奏でありながら西洋の音楽のよさを取り入れた曲であることに気付き、さらに自ら演奏の仕方を工夫して表現することで日本の音楽に親しみを持つことができるようになること。

この題材を通すことで、今まで以上に日本の音楽に興味を持ち、楽器の音色や響きを味わって聴き、楽しもうとする姿を期待することができる。

#### 単元計画（総時数 6時間）

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 「春の海」を鑑賞する	①②
箏と尺八で演奏されている曲だ 海の様子がとてもわかるよ	弦楽器や管楽器で演奏しても日本的だね でもイメージは随分違う気がするよ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕はやっぱり箏と尺八が好きだなあ</li> <li>・自分たちも演奏してみたいよ</li> </ul>	
2 「僕たちの春の海」を練習する	②③④
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくはAの部分の遅くなる所を演奏してみたい</li> <li>・私は夜のイメージで鉄琴で演奏したい</li> <li>・ぼくはマリンバでトレモロを入れて流れを表したいな</li> <li>・この部分はテンポを上げてみよう</li> </ul>	
3 互いに聴き合う	③④
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな表現の仕方があるんだね</li> <li>・お友達のイメージが伝わってきたよ</li> <li>・日本のふしに想いを込めて楽器で演奏できたよ</li> <li>・演奏の仕方を工夫して楽しく表現できたよ</li> </ul>	

学びを広げ深めるために

① 教材の精選を図る

教科書では「越天楽今様」と「春の海」の二曲を教材として扱い、さらに俳句に旋律をつける創作学習が組み込まれ、広く日本の文化に触れることを目標にしている。しかし6年生は総合の学習において日本の文化のよさに親しむ学習を行っているので、ここでは純粋に音楽に焦点をあて単元を構想することにした。その結果創作の部分は割愛し、題材である自分の音で表現することに重きをおくために「越天楽今様」は鑑賞教材としてのみ取り扱うことにした。

→各々の楽曲のよさや美しさを感じ取ろうとする姿

② 芸術としての音楽の特質に触れるような楽曲との出会いをはかる

「春の海」の原曲は琴と尺八で演奏されているが、近年弦楽器とハープなど西洋の楽器でも演奏されることもあるので、さまざまな楽器による演奏のCDやLDを鑑賞できるように準備しておく。又実際に日本の和楽器や伝統楽器があればそれらに触れる機会も用意したい。このことにより、より一層日本の楽器に関心を持ち、よさを感じ取るのに役立つことができると思われる。

→鑑賞したり実際に触れたりして表現の工夫に生かそうとする姿

③ 音や音楽そのものに関わる活動を重視する

練習段階では、演奏する楽器ごとにわかれたり演奏部分ごとにわかれたりして練習できるような場を設け、常に互いに聴きあえるようにしていきたい。又、音楽の流れのなかで自分の思いをこめて表現できるように、伴奏のテープや自動演奏オルガン又はピアノを活用していきたい。

→音に集中して自分の表現を練り上げようとする姿

④ 自分の表現を振り返り、新たな意欲を持つことができるような場を持つ

発表する際にはどんな思いを込めたいのか、どんな表現をしようとしているのかを聴く側に伝わるような配慮をして、また個々のよさを認め励ましていきたい。

→新たな意欲を持ち表現活動しようとする姿

4 本時の学習(5/6時)

ねらい 自分の思いを込めて表現を工夫したり、友達の表現のよさを感じ取って聴いたりすることができる。

本時の展開

